

令和7年1月23日

各報道機関文教担当記者 様

## 災害ボランティア活動を支援するための AI エージェントを開発

金沢大学理工学域3学類一括1年の佐伯志織、三島未来、学生サークル「金沢大学ボランティアさぽーとステーション」（「ボラさぽ」(※1)）および「ボラさぽ」の顧問を務める原田魁成講師（人間社会学域経済学経営学系）は、国際基幹教育院GS教育系の唐島成宙准教授、融合研究域融合科学系の南保英孝教授、金居督之准教授、株式会社システムサポート（代表取締役社長 小清水良次）と共同で、**災害ボランティア活動のノウハウを提供するAIエージェント(※2)を開発**しました。

令和6年に発生した能登半島地震と豪雨災害を受け、地域社会の復旧・復興における災害ボランティア活動の重要性が改めて認識されています。しかし、ボランティア活動の参加者数は、十分ではないのが現状です。内閣府の調査によると、「情報不足」がボランティア活動に参加しない大きな要因であることが報告されています。そこで、「ボラさぽ」とともに、異分野融合（医療・経済・AI）共同研究開発チーム「デジさぽ」を結成し、災害ボランティア活動参加者の不安を軽減し、持続可能なボランティア活動の手助けとなる、災害ボランティア活動に関する正確かつ実践的な情報提供を行うAIエージェントを開発しました。

今回開発した災害ボランティア活動支援AIエージェントは、災害ボランティア活動時の安全対策や準備物などをLINE上で簡単に案内し、性格診断に基づいた個別アドバイスも行います。実証実験では、利用者の85%が「他の人にも勧めたい」と高く評価しました。現在は、「ボラさぽ」の活動参加者を対象に試験運用されています。

一般公開については、今後の準備状況を踏まえながら検討しており、公開の際には、LINEの友だち登録を通じて幅広くご利用いただけるようにする予定です。

**これまで災害ボランティア活動の支援を目的とした類似ツールはほとんどなく、本ツールは新しいニーズに応える革新的なサービスとして期待されています。**

## 【研究の背景】

令和 6 年 1 月に発生した能登半島地震（以下「能登半島地震」）に見舞われた能登半島北部は、その後、令和 6 年 9 月の豪雨災害でも再び甚大な被害を受けました。このような災害において、地域社会の復旧や復興を支える重要な役割を果たすのが災害ボランティア活動です。しかし、ボランティア活動の参加者数は、十分ではないのが現状です。令和 4 年度に内閣府が実施した「市民の社会貢献に関する実態調査」（回答数 3169 名、複数回答可）によると、ボランティア活動に参加しない理由として「ボランティア活動に関する十分な情報がない」と回答した人が 40.8%にのぼり、さらに「情報が少ない」「自分に何ができるかわからない」といった理由から、ボランティアへの参加が伸び悩む状況が見られます。

そこで、本学の研究者から成る医療系人工知能研究グループは、災害被災地への継続的な学生ボランティア派遣のための活動を行っている「ボラさぼ」とともに、異分野融合（医療・経済・AI）共同研究開発チーム「デジさぼ」を結成しました。災害ボランティア活動への参加を促すため、災害ボランティア活動参加者の不安を軽減し、持続可能なボランティア活動の手助けとなる、災害ボランティア活動に関する正確かつ実践的な情報提供を行う災害ボランティア活動支援のための AI エージェントを開発することを考えました。

## 【開発の概要】

今回開発した災害ボランティア活動支援 AI エージェントは、災害ボランティア活動に必要なノウハウを学ぶための機能を搭載しています。例えば、災害ボランティア活動時の安全対策、現場での効果的なコミュニケーション方法、必要な準備物などを初心者にも分かりやすく解説し、活動に必要な基礎知識を簡単に習得できる仕組みを提供します。これにより、初めて災害ボランティア活動に参加する方でも安心して活動を始められる環境を整えました。

さらに、内閣府などの公的支援情報を活用するだけでなく、若者に人気の 16 性格診断（※3）を基にした質問と回答集を作成し、個々の性格に応じた情報を提供します。16 性格診断を活用することで、ユーザーの性格に応じたボランティア活動や災害現場での適切な行動方法を提案することが可能です。例えば、外向的な性格の人には現場での調整役や対人支援活動を、内向的な性格の人には事務サポートや分析業務といった集中力を活かせる役割を提案します。これにより、一人一人の適性に合わせた活動参加を促進します。

加えて、本災害ボランティア活動支援 AI エージェントは、「ボラさぼ」の全面的な監修を受けており、現場で役立つ実践的な内容が充実しています。また、プラットフォームとして LINE を採用しており、誰でも簡単に質問可能で、災害時や活動中の疑問に迅速に対応します。これにより、ボランティア活動への参加を後押しすることが期待されています。

リリース前の実証実験では、若年層を中心とした 26 名のモニターを対象に、災害ボランティア活動支援 AI エージェントの使用感に関するアンケートを実施しました。そ

の結果、回答者の81%が「初心者がボランティアに参加する際の不安解消に役立つ」と回答し、85%が「他の人にもこのツールを勧めたい」と高い評価を示しました。

これまで災害ボランティア活動の支援を目的とした類似ツールはほとんどなく、本ツールは新しいニーズに応える革新的なサービスとして期待されています。

#### 【今後の展開】

今後は、災害ボランティア活動支援 AI エージェントを活用して、ボランティア活動への参加を促進し、地域全体の防災力を強化することを目指します。さらに、将来発生が懸念される地震への備えとして、この災害ボランティア活動支援 AI エージェントを他地域のボランティア活動にも応用できるデジタルインフラ（※4）へと発展させる計画です。そのため、災害ボランティア活動支援 AI エージェントの機能を一層拡充し、多様なニーズに対応可能な仕組みを構築することで、災害対応力のさらなる向上を図っていく予定です。

本研究は、株式会社システムサポートとの共同研究事業「XR/AI を駆使した未来型健康増進・医療支援サービスの開発と実証研究」の支援を受けて実施されました。

## 災害ボランティア活動用 Chatbot の期待される効果

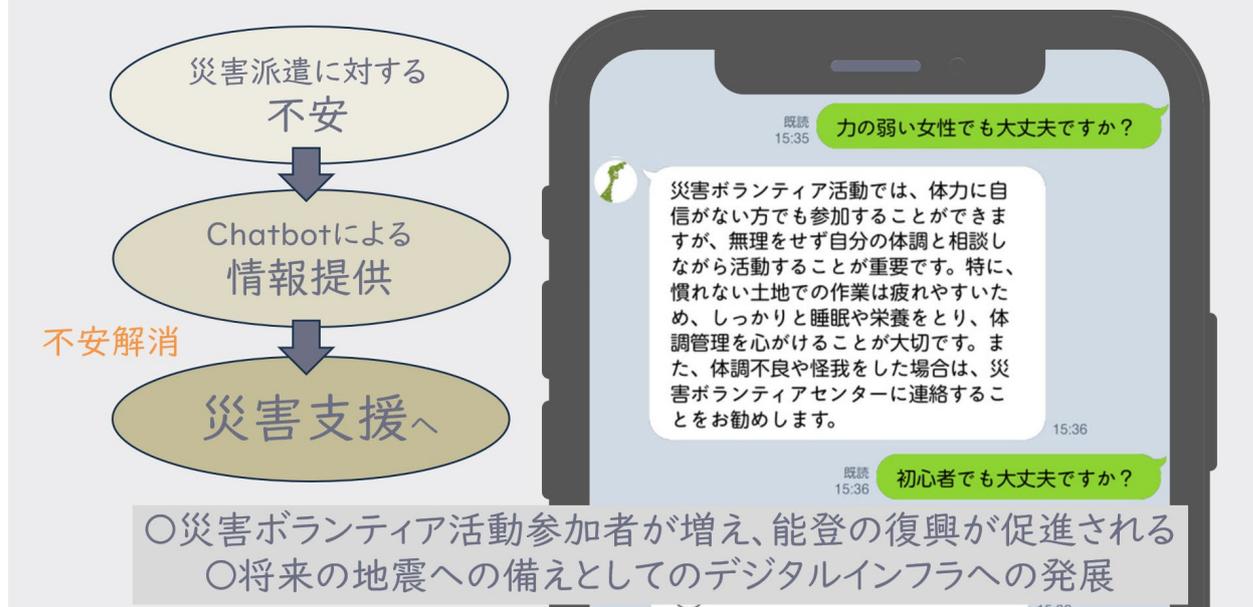


図. LINE を用いた災害支援者用チャットボットの画面（画面は開発中のもの）

## 【用語解説】

### ※1 「金沢大学ボランティアさぼーとステーション」(「ボラさぼ」)

2011年創部の金沢大学課外活動団体。東日本大震災発災時から活動を続け、能登半島地震および豪雨災害においても、発災直後から災害ボランティア活動に取り組むと同時に、継続的な学生ボランティア派遣のための活動も行っています。

### ※2 AI エージェント

AI エージェントは、高度な自然言語処理能力を備えた自律的なシステムで、人間の指示やニーズに基づいて柔軟かつ精密にタスクを遂行します。膨大なデータから学習した知識を活用し、会話や意思決定、情報提供など、幅広い分野で効果的なサポートを提供します。

### ※3 16 性格診断

16 性格診断は、人の性格を 16 種類のタイプに分類する心理診断ツールの一つです。心理学者カール・グスタフ・ユングの理論を基に開発され、近年では職業適性や対人関係の分析にも広く利用されています。診断では、回答者が日常の行動や考え方に関する質問に答えることで、外向的か内向的か、計画的か柔軟的かなど、性格の傾向を分析します。

### ※4 デジタルインフラ

デジタルインフラ（デジタルインフラストラクチャー）とは、情報通信技術（ICT）を活用して社会の様々な活動を支える基盤となる仕組みやシステムを指します。これには、インターネットやクラウドコンピューティング、AI（人工知能）、IoT（モノのインターネット）といった技術や、データを活用して情報を共有・分析するプラットフォームが含まれます。

## 【本件に関するお問い合わせ先】

### ■開発内容に関すること

金沢大学国際基幹教育院 GS 教育系 准教授

唐島 成宙（からしま しげひろ）

TEL : 076-264-5802

E-mail : skarashima@staff.kanazawa-u.ac.jp

■ 「ボラさぼ」の活動に関すること

金沢大学人間社会研究域経済学経営学系 講師

原田 魁成 (はらだ かいせい)

TEL : 076-264-5436

E-mail : haradakai@staff.kanazawa-u.ac.jp

■ 共同研究

株式会社システムサポート

〒920-0853 石川県金沢市本町 1-5-2 リファール 9F

TEL : 076-265-5151 FAX : 076-265-5686

URL : <https://www.sts-inc.co.jp/>

■ 広報担当

金沢大学学務部基幹教育支援課基幹教育管理係

椿 一臣 (つばき かずおみ)

TEL : 076-264-5753

E-mail : stkanri@adm.kanazawa-u.ac.jp